

3. 学生とともに進めるまちづくり



鉄西わくわく子ども雪遊び(平成30年2月4日、さつき公園)

鉄西まちづくり学生推進委員会の取り組み

鉄西まちづくり学生推進委員会 会長 よし ぎき ゆう 吉崎 雄

はじめまして！鉄西まちづくり学生推進委員会で、会長を務めている吉崎雄と申します。

私は高校生の頃、インターネットの動画サイトでYOSAKOI 演舞を見て、創作ダンスの参考としていた時期がありました。繰り返し見ているうちに自分もやってみたいと思うようになり、大学に進学後、今所属しているサークル『テスク&祭人(まつりんちゅ)』に入ったのですが、これが私と鉄西まちづくり学生推進委員会との出会いとなりました。

神奈川県出身の私は、鉄西地区が札幌市内のどの辺りを指すのか知りませんでしたし、地域にどのような活動があるのか、もちろん分かりませんでした。しかし、委員会での活動を通して、鉄西地区に深く関われば関わるほど、この街を好きになっていったように思います。

私たちの委員会は、『テスク&祭人(まつりんちゅ)』と『北海道大学“縁”(えん)』という、二つのYOSAKOI チームから構成されており、会長以下全員が学生です。平成 19 年に立ち上げられて以来、10 年以上にわたって活動を引き継いできました。例年の活動メニューは大体決まっていますが、毎年担当者が変わり、少しずつ内容の見直しを図っています。前年よりも良いものにしたという気持ちが、活動への励みにつながっていると思います。

同時に、鉄西連合町内会の青年部にも所属しており、役員の方々と協力しながら、鉄西地区を盛り上げる活動に、年間を通して取り組んでいます。

春は、新入生を迎えた5月中旬、「鉄西披露会」と称して、二つのYOSAKOI チームが合同で演舞を発表しています。地域の方々に、学生の元気をプレゼントしたいという思いから、いち早く

新年度の演舞を披露しているもので、自分たちもYOSAKOI ソーラン祭りに向かう気持ちを高めています。同時期に、地域の町内会の呼びかけに応じ、様々な行事の会場になる「さつき公園(北11条西2丁目)」周辺の清掃や花植えにも参加しています。



夏は、7月中旬に「鉄西夏まつり」があり、設

◆鉄西まちづくり学生推進委員会の取り組み

営や出店のスタッフとして大勢の学生が従事するとともに、ステージではYOSAKOI 演舞を披露しています。

秋は、例年9月上旬、地域の更なる活性化に貢献したいという願いから始まった「もっとにっこり!! 鉄西秋祭り」を主催しています。平成30年度は、9月6日未明の北海道胆振東部地震の影響が大きく、やむなく中止としましたが、毎年、学生がゼロから企画を立ち上げ、準備や運営を行っている、手作りの祭典です。また、この時期は、鉄西地区コミュニティネットワーク会議に参加し、子ども安全マップづくりのサポーター役として、小学生と一緒に街歩きをします。このほか、諏訪神社のお祭りの機会に、子どもたちがお神輿を担ぎながら地区を一周する「鉄西子どもみこし会」に協力しているなど、大人だけではなく子どもたちとも一緒になって活動しています。



冬は、2月上旬に、子どもたちに雪中宝探しやソリ遊びなどを楽しんでもらう「鉄西わくわく子ども雪遊び」を主催しているほか、さっぽろ雪まつりにも雪像制作という形で携わることで、鉄西地区の活気を、地区外に積極的にPRしています。



ここまで主な年間活動をご紹介しましたが、平成30年の北海道胆振東部地震の際は、避難所となった北九条小学校でボランティア活動も行いました。町内会役員の方々のお手伝いをする中で、支え合いの大切さを学ぶことができましたし、普段お世話になっている地域の皆さまへの恩返しにもなり、とても良かったと思います。また、JR札幌駅から近い地区のため、観光客の方も多く避難されていましたが、たくさんの方から謝意を伝えてもらったことが印象に残っています。

鉄西地区は、区域内に北海道大学の構内を含んでおり、学生が特に多く住んでいる地区の一つですが、こうして活動に取り組むことは、学業以外にも多くのことを学べる貴重な機会になっています。様々な活動を通してクリエイティブな発想を養えることやイベントを一つ一つ終えた時の達成感・充実感を味わったことは、今後私たちが社会に出たとき、大きな力となるに違いありません。

このような経験を重ねることができるのは、鉄西連合町内会や様々な地区組織の方々、鉄西まちづくりセンターなど、多くの支えがあるからこそです。この紙面をお借りして感謝の気持ちをお伝えしますとともに、ぜひ後輩たちにも同じように経験させていただけますようお願いをいたします。

これからも、鉄西まちづくり学生推進委員会の活動に、ご理解とご支援のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。

○お問い合わせ

鉄西まちづくりセンター

TEL. 011-726-5285

3. 学生とともに進めるまちづくり

地域に愛され、地域を愛し、これからも。

学生と地域で考えるまちづくり会（NeoLos幌北） 代表 よね みつ やす たか 米光 保貴

<NeoLos 幌北の活動と現在>

NeoLos 幌北は、2 人の学生が幌北の夏祭りのお手伝いをしたことをきっかけとして 2007 年に発足して以来、学生の力を地域に取り込むべく、年間を通して幌北地区で活動をしています。普段の活動では、町内会や、幌北小学校、幌北児童会館などのイベントのお手伝いをしたり、学生自らが企画を提案しイベントを実施したりしています。

NeoLos 幌北は 2017 年、地域の多くの方々の支えにより、活動を始めてから 10 周年を迎えました。10 周年を迎えるにあたり、地域の方々や NeoLos 幌北の OB・OG を招き、10 周年パーティーを実施しました。10 周年パーティーには、非常に大勢の地域の方、OB・OG が参加してくださり、大変にぎやかな会になりました。



2017 年は加えて、これまでの活動が認められ、「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」の内閣府特命担当大臣表彰を受賞しました。この表彰は、地域や社会の輝く未来に向けて行った社会貢献活動において、顕著な功績があった個人又は団体に贈られるものです。活動開始から 10 周年を迎えることができたこととともに、地域と NeoLos 幌北が、長年一体となって活動を行ってきた成果だと思えます。



<具体的な活動例>

- ・各町内会花植えお手伝い

毎年 5 月に、町内会ごとに行っている花植えのお手伝いに参加させていただいています。苗を運ぶ作業や、雑草を抜く作業など力仕事を中心に活動のお手伝いをしています。町内会ごとに花壇のデザインに工夫を凝らしており、地域の美観向上に役立っています。



- ・幌北ふるさと夏祭り

幌北地区最大のイベントであり、会場設営から、当日の飲食・体験ブースの出店、会場撤収まで、協力をしています。体験ブースでは、子どもたちに遊んでもらえるゲームを行っています。年によってゲーム内容は変わり、2017 年は、水とでんぷ

◆地域に愛され、地域を愛し、これからも。

ん粉を混ぜ合わせて作った液体に生じるダイラタンシー現象（液体に瞬間的な力が働くとその部分が一瞬固体のようになる現象）を使った水の上を歩く企画、2018年は、紙飛行機を使った的あてを行いました。



・秋のウォーキング大会

北海道大学構内を幌北小学校5年生、地域の方と交流しながら歩くイベントです。小学校5年生が主体となり、事前の準備から、当日の進行まで行います。NeoLos 幌北は、事前の授業訪問を通して、小学校5年生がスムーズに運営をできるように、補佐をします。

小学生が、イベントの運営を行う経験をする場であるとともに、地域の世代を超えた交流を行う場となっています。



・留学生交流会

多くの留学生が暮らす幌北地区の特性を生かした取り組みとして、留学生と地域の方の交流を深め、様々な国の文化や魅力を発信する目的で開催しています。

2018年度に開催した交流会には、スウェーデン、フィンランド、デンマークの北欧留学生が参加し、スライドを用いながら、それぞれの出身国の文化

や名所などを日本語で紹介してくれました。その後、留学生にスウェーデンのサンドイッチケーキやデンマークのクリスマスデザートの作り方を教わりながら、参加者全員で作って食べ、交流を深めました。



・絵本パフォーマンス

地域の方にプロの絵本の読み聞かせを楽しんでもらうことを目的に2018年度に初めて開催したイベントです。学生が、企画から広報、運営まで全て進めました。普段町内会活動で接点のなかった子育て世代の方々にも多く参加いただくことができ、参加者は100名以上に上りました。



<NeoLos 幌北の今後>

NeoLos 幌北が10周年を迎えることができたのは、地域の方の支えがあったからにほかなりません。これだけの長い期間、地域に密着して活動することができていることを大変嬉しく思います。今後20年、30年、更には100年と地域と共に活動していきたいと思っています。

○お問い合わせ

TEL. 011-726-6345

(幌北まちづくりセンター)

Eメール neolos.horokita@gmail.com

(NeoLos幌北)

3. 学生とともに進めるまちづくり

『いつでも・どこでも・だれでも』 光陽ちょぼら隊！

札幌市立光陽中学校 教諭 森 紗彩

I 経緯

光陽中学校では、平成 15 年に生徒会憲章ともいえる「生徒会自治活動宣言」が作られたことをきっかけに、生徒会の活動として、『安春川清掃ボランティア』や『除雪ボランティア』が行われてきた。しかし、活動が行事化されるにつれ、発足時の自主性が少しずつ薄れ、さらに「活動日に都合がつかなければ参加できない。」という問題点も挙げられた。その現状を打破すべく、昨年度まで本校の教員であった堀大輔先生が、有志によるボランティア団体を立ち上げようと考えた。『①社会福祉活動の実践を通じて、他者に対する思いやりや助け合いの心を育てる。』『②地域とのつながりに重点を置いた活動を通じて、地域社会に目を向けることができる心を育てる。』という目的の下、活動を通して学年全体、学校全体を活性化していきたいというねらいがあった。

II 実現に向けて

ボランティア団体の名前は、『光陽ちょぼら隊』。名前の理由は、ちょっとしたボランティアを略して“ちょぼら”と名付け、ちょぼらしたい生徒の集まり、『ちょぼら隊』ということで決定した。平成 24 年 6 月に結成され、現在では、2・3 年生を中心に 76 名の生徒で活動している。有志のボランティア団体ではあるが、それでもこれだけの生徒が集まり、自主的に人のために活動したい、と思ってくれる生徒がいることは、とてもうれしく感じる。



III 活動内容

	活動内容
4 月	隊員の募集
5 月	校区内公園清掃 (4 公園) 校内清掃 (雨天時)
6 月	校区内公園清掃 (3 公園) 第 27 回ひだまりサロン参加 新・新まつり参加
7 月	介護老人保健施設サンビオーズ新琴似 訪問 (2 日間)
8 月	GO!GO!きたっこ夏まつり参加 新琴似保育園訪問 (3 日間) 第 5 回夏の子どものフェスティバル 校区内公園清掃 (6 公園+安春川)
12 月	第 28 回ひだまりサロン参加
1 月	雪かきボランティア「レッツ！雪かき汗 かきチャレンジ！」
2 月	異世代交流会参加
3 月	校区内公園清掃 ※予定

IV 具体的な実践

1 ふれあい活動への参加

【ひだまりサロン】 【新・新まつり】 【GO!GO!きたっこ夏まつり】 【夏の子どものフェスティバル】 【新琴似保育園訪問】

どの活動も小さい子どもたちと遊び、ふれあうことを目的とするものであり、地域の方々が主催するイベントに、学生ボランティアとして参加し、『光陽ちょぼら隊』を多くの人に知ってもらう良い機会にもなった。

特に『ひだまりサロン』は、光陽ちょぼら隊の結成時から欠かさず参加している、ごみ拾い以外の活動を行う原点となった活動である。最後にステージで見せるダンスは、毎年少しずつアレンジしていき、会場にいる子どもたちを楽しませられるよう頑張って準備をしている。昼休みや放課後に、汗をかきながら練習する生徒たちは、本当に

純粋な心をもって取り組んでおり、手前味噌ながら素敵な子たちであると感じる。イベントに参加させてもらうことによって、自分の生まれ育った地域の様々な行事を知ることができたことは、大きな収穫となった。

2 支援活動への参加

【介護老人保健施設サンビオーズ新琴似訪問】

介護老人保健施設サンビオーズ新琴似では、入所者の方々やデイケアの方々と交流を深めた。お話しやリハビリのお手伝い、オセロゲームなどで生徒も一緒に楽しみ、中学生の若いエネルギーを贈ることができたと感じる。生徒たちは、職員の方々が動く様子を見て真似して動いたり、時には失敗したりと、考えて動くことの大切さを学んだ。



3 奉仕活動への参加

【校区内公園清掃】 【校内清掃※雨天時】

自分たちが暮らす地域をキレイにしたいという生徒の思いからスタートした活動であり、この校区内公園清掃がちょぼら隊の原点であることは言うまでもない。校区内には34の公園があり、数回に分けて清掃した。もちろん公園に移動するまでの道路のごみも拾っていったが、公園よりもむしろ道路の方が、ごみで汚れていることに驚いた。特に多いのは、たばこの吸い殻やビールの空き缶である。大人のモラルが問われるこの状況に、ごみ拾いをする生徒たちも複雑な気持ちで取り組んでいる。大人が落としたごみを中学生の子どもたちが拾う世の中ではいけないと痛感した。

しかし、途中で会う地域の方々に、「ごくろうさま」「ありがとう」などの言葉をかけていただいたことは、大変励みとなった。子どもたちも元気良く挨拶を返し、地域の方々とつながりを感じることができる活動である。

V 活動の成果

ちょぼら隊の活動を通して、普段から「ちょぼら」という言葉をよく聞くようになった。学年によっては、掃除当番や給食当番の他に、「ちょぼら班」というものが作られるほどである。それだけ、この「光陽ちょぼら隊」が光陽中学校にもたらした影響は強いと感じる。また、ちょぼらの良いところは、「いつでも・どこでも・だれでも」できるということである。公園清掃やイベントへの参加だけがちょぼらではない。学校で、困っている人に手を貸してあげたり、相手や周りにさりげない心遣いや思いやりを示せたりすること、これこそが真のちょぼらであると考えている。さらにうれしいのが、ちょぼら隊でない生徒も、ちょぼら隊が活躍する姿を見て、黒板消しやプリント配布など進んで手伝いをしてくれるようになったことである。このような心遣いの広がりや、やがて学校や地域を支える大きな力となっていくことだろう。今、本校の生徒は自分のちょっとした行動が地域の役に立っていることを実感し、またやってみようという気持ちになってきているところに、大きな喜びと成果を感じている。

VI 今後の展望

今後は、今までのつながりを大切に、できる限りの活動を継続していきたいと考えている。光陽中学校に「自ら人のために動きたい」と思う気持ちを芽生えさせてくれた、光陽ちょぼら隊。私は、前任の堀先生から引き継ぎ、たった1年間活動してきただけであるが、非常に楽しく有意義な活動ばかりであった。発足当初本校は、生活の規律や習慣が身につけていない生徒や、規範意識の薄い生徒が多い傾向が見られ、生徒指導上の課題を多く抱える時代であったと聞いている。そんな時代に生まれた光陽ちょぼら隊が、今後も地域のために活躍していけることを願っている。そして、この1年、光陽ちょぼら隊の顧問として、子どもたちと一緒に地域に貢献できたことを、誇りに思う。

○お問い合わせ

札幌市立光陽中学校

TEL. 011-763-0066

3. 学生とともに進めるまちづくり

コラム⑥北区内で行われている学生による地域活動について

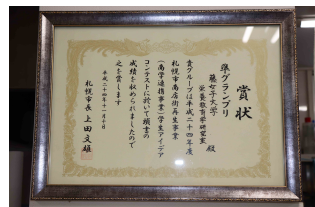
北区市民部地域振興課

北区は、大学施設が多く立地し、学生が多く居住するまちです。ここでは、前のページで紹介したもののほかに、北区内で行われている学生による地域活動を紹介します。

【商学連携によるコミュニティカフェ運営の取り組みー麻生キッチンりあん】

「麻生キッチンりあん」は、麻生商店街振興組合が、藤女子大学の食物栄養学科で学ぶ学生やNPO法人などと連携して運営するコミュニティカフェです。空き店舗を活用して子どもに対する学習と食の支援を行い、地域の方にもバランスのとれた食事を提供して商店街を活性化させようという学生のアイデアが、平成24年に札幌市の「商店街再生事業学生アイデアコンテスト」で準グランプリを受賞したことがきっかけとなって誕生し、地域交流の拠点としてさまざまな取り組みが行われています。

現在、りあんでは、藤女子大学の学生が、栄養バランスに配慮した献立を考え、調理した食事を提供する実習活動を行っています。週1回、「藤麻人」（とまん）の名で地域の方にワンコインランチを提供しているほか、NPO法人と連携して一人親家庭の子どもを対象に開催されている学習支援の場で、食事の提供を担当しています。活動について話を聞かせてくれた学生は、「地域の方とさまざまな交流の機会を持つことができ、やりがいを感じながら活動しています」と語ってくれました。



【北海道武蔵女子短期大学ボランティア委員会の活動】

北海道武蔵女子短期大学ボランティア委員会は、学生によるボランティア活動を推進し、ボランティア活動を通じて地域社会との交流と相互理解を図ることを目的に、同大学の学生組織である「ライラック学生会」に置かれている委員会の一つとして活動しています。

大学周辺の清掃活動を始めとして、近隣の町内会の方々とともにに行っている街路の植樹ますへの



花苗の植栽や除草などの美化活動、様々な地域イベントの企画・運営への協力など、幅広く活動しています。

また、英文学科が設置されていることを生かし、北海道大学で留学生を対象に行われているオリエンテーションでは、北海道警察とも連携して、留学生がインターネットを利用した犯罪に巻き込まれないように注意喚起する内容の講話について、英語での説明に協力しています。



活動について話を聞かせてくれた学生は、「普段学内では接する機会のない様々な世代の人たちと関わることができ、良い刺激を受けたり子どもたちからはパワーをもらったりと、貴重な経験を積むことができました」と語ってくれました。

【お問い合わせ】北区市民部地域振興課 TEL. 011-757-2407

(麻生キッチンりあんに関すること) 麻生商店街振興組合 TEL. 011-707-9923 (西本)